

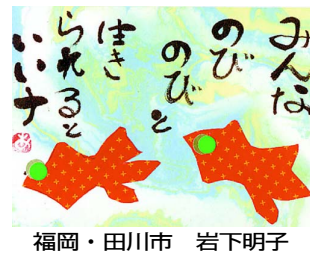
新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 旧統一協会と政治 / ニュース
- 3面 読者のページ / まんが
- 4・5面 原発訴訟最高裁判決 / 女性&メディア / ホット
- 6面 早乙女勝元さん 追悼 / 文化 / 母の歴史
- 7面 新婦人のページ / 自然とあそぼう!



福岡・田川市 岩下明子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

地場産食材の学校給食に

月1回の有機米



コロナ禍の黙食でも、給食は楽しみ! (松川小学校で)

長野県北安曇野郡

池田町、松川村



北アルプスのふもと、隣接する池田町と松川村

全国で地場産の食材を使う学校給食が増えているなか、長野県北安曇野郡の池田町と松川村では、昨年1月に1度、地元農家の有機米を提供するようになりました。海外で広がる有機給食についても、愛知学院大学の関根佳恵教授に寄稿してもらいました。



平林村長(左から2人目)と学校給食に関わる職員のみなさん。取材は新婦人松川支部の船本支部長と谷口事務局長が同席

は、平成の市町村大合併が広がるなか、合併せずに自立を選んだ町村です。両自治体で協同し、学校給食を「池田松川学校給食センター方式」で小中学校に提供しています。

主食は週1回のパン以外はお米で、白米のほか混ぜご飯やピラフなども。お米は松川村の特別栽培米ですが、2020年11月から2カ月に1回、有機栽培米150kg(1500食)提供が始まり、昨年11月からは月1回に増えました。

松川村の担当課長は「学校給食に地元の米や野菜を使うことはずっと意識しています。月1回の有機米の提供は、住民からの要望に加え、農家の協力があったからこそです。野菜と違って米は長期保存ができるので、導

住民の運動で

給食の献立には月に1度「ごはん(有機米)」の表示があり、子どもたちは「今日は特別なお米なんだよね」「味わって食べよう」など楽しんでいました。

池田町と松



宮田さん夫妻 有機米の田んぼの前で

入しやすかったのです」といいます。

村長の平林明人さんは「松川村では昔から米を作ってきました。村のみなさんが心配せずに生きていくために、米作りを応援しています。米価が下がったり、肥料の値段が上がったりして、米だけ、野菜だけを作っている専業農家が大変になっています。今後も農家が困らないように支援をしていきたい」と話します。

川村の住民でつくれた「生き物いきいき田んぼの会」の運動がありました。有機米生産者の宮田兼任さんと矢口一成さん、池田町議会議員の松野亮子さん、地域おこし協力隊で移住してきた若い人たちが、有機農作物に関心がある保護者たちでつくれた会です。

宮田さんと矢口さんは農連の会員で、2人合わせて7・5畝の田んぼのほとんどが有機米です。松野さんは東京から池田町に移住してきて有機農業を広げたいと思っています。

「給食に有機米を」と公約して2019年町議選挙に立候補し、無投票で町議になりました。

同年12月町議会で給食に有機米を使うよう働きかけると、有機農業の推進とオーガニックタウンをめざす町長はすぐに調査を開始。何度か有機米の田んぼに足を運び、稲

特別栽培米と有機米はどう違う?

特別栽培米とは、各県や地域で決められた農薬や化学肥料使用を基準(慣行栽培)の5割以下に減らして育てた米。有機栽培米(農薬不使用米)は、農薬のほか化学肥料の使用を避け、その土地の自然に由来する肥料分で土づくりをし、栽培された米のこと。

池田町と松

8月20日号は休刊です

有機米を提供するにあたって、宮田さんと矢口さんは、利益をギリギリにした金額を提示、それが特別栽培米の値段と数百円しか違わなかったことで導入できたといいます。「まずは導入して、食べて知ってもらおうことが大事だと思った」と宮田さんは話します。

〈2面へ〉

